



高梁市議会議長
宮田 公人



高梁市長
近藤 隆則

令和4年 年頭のごあいさつ

令和4年の新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

昨年は、一昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症への対応に注力した1年となりました。最前線でご尽力いただいている医療従事者の皆さまをはじめ、長期にわたり感染拡大防止にご協力いただいている市民の皆さま、市内事業者の皆さまに深く感謝申し上げます。

県内でもオミクロン株の感染が確認されるなど、新型コロナウイルス感染症については予断を許さない状況ではありますが、感染拡大防止と収束に向けて、3回目のワクチン接種について着実に進めてまいります。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

コロナ禍の1年ではありまし

たが、明るい話題もありました。

8月には本市出身の齋藤愛美選手が東京2020オリンピック女子4×100mリレーに出場し、その走りは勇氣と感動を与えてくれました。9月には有漢工業団地や旧高梁市健康増進施設「朝霧温泉ゆ・ら・ら」の跡地活用についての立地協定を締結したほか、12月には「高梁観光交流センターATA!」がオープンし、産業・観光振興のさらなる進展に期待をしております。

本年の干支は「壬寅」で、壬は「水」、寅は「木」を意味し、五行説で言う「相生」というお互いを強め合う良い組み合わせと言われています。また、厳しい冬を乗り越えるほど、春の胎動が大きくなるという意味があるのだそうです。新しい高梁市総合計画をはじめ、その他の事業においても、令和3年にまいた種が芽吹き、大きく成長していく飛躍の年にできればと思います。

令和3年度に開始された高梁

市総合計画では、都市像を「健康都市たかはし」と定め、「つながりから創る心豊かなまちづくり」を基本理念とし、市民の皆さまが健康で活力があり、「住みたい」「住み続けたい」と思える快適なまちづくりを進めてまいります。ICT(情報通信技術)やDX(デジタル技術により暮らしを豊かにすること)を推進し、住民サービスの向上や業務の効率化を図る取り組みにも重点を置きます。

また、平成30年7月豪雨から3年半が経ち、災害からの復旧はおおむね完了し、復興のための事業に着手しています。本年も災害に強い安心・安全なまちづくりを目指して、国・県との協調や連携を密にし、防災・減災対策の推進に努めてまいります。

新しい年が皆さまにとっても、新しい実りの年となりますことを心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

令和4年の新春を迎え、市民の皆さまにはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。目ごるから市政の推進ならびに議会活動に対しまして、深いご理解とご協力を賜っておりますこととに感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症との戦いが始まって、はや2年が経過しようとしております。ワクチン接種による集団免疫の獲得によって、昨秋から幾分状況は改善されてきておりますが、オミクロン株の発生により新たな脅威にいかに対応していくかということが喫緊の課題となっております。私たちが以前のような日常を取り戻すためには、もう少し時間がかかるのかもしれない。

こうした目に見えないウイルスによってお互いの地域活動が制限され、長期化している現状において、コミュニケーションの機会が減少し、地域コミュニティに少なからず影響を与えているのではないかと危惧いたします。逆にそのことが、人と人が集い、共に語らうことの大切さを私たちに再認識させていることも皮肉な事実かもしれません。

議会の1年を振り返ってみますと、コロナ禍故に市民の皆さまとの意見交換の場である議会報告会の開催もかねておりません。本年は改めて議会報告会の開催を計画し、適切な新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、市民の皆さまとの対話

の機会を設けたいと考えております。

また、「議会のあり方検討特別委員会」におきましても、それぞれの課題に一定の方向付けを行いながら、議会の活性化に向けて、引き続き議論を重ねてまいります。

大きな一歩を形にすることは容易ではありませんが、議員一人一人の積み重ねが総じて、議会への信頼につながるよう力を合わせてまいります。

結びに、新しい年が市民の皆さまにとりまして、幸せで実り多い年となりますよう議員一同、心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

写真：備中松山城からの初日の出(1月1日)